

令和5年度 学校評価シート①

八峰町立峰浜小学校

R6年2月15日(木) 報告

評価項目

学習指導

重点目標	峰小授業スタイルの継承・改善と学びを深める教師のコーディネート力向上によって主体的・対話的で深い学びを実現していく。	P
現 状	・若年層教師の研修とも関連付け、確かな学力を保障する基本的授業スタイルの継承・改善と教師のコーディネート力向上が必要である。	
具体的な目標	○初任者研修を含め、キャリアに応じた各種研修の計画的な実施と授業実践の積み重ねにより、教師の着実な授業力向上を推進する。 ○学習内容の確実な定着を図り、県の学習状況調査で県平均を上回る。	
目標達成のための方策	○初任者研修など各種研修の計画的な実施と研修内容の共有。 ○後半重視型である「峰小授業スタイル」の実践と検証、改善。 ○分かる授業につながるICT機器の効果的活用。 ○板書・ノート指導・話型活用・月別強化事項などの共通実践。	
具体的な取組状況	○峰小授業スタイルの継承・改善を図るべく、教師の「コーディネート力向上」をテーマに、全教員が研究授業と見合う授業を行う。児童が主体的・対話的に学ぶことができるよう、前半をシンプルにし、後半を重視する授業展開やICT機器の効果的活用について研修している。 ○年度初め、教育専門監による授業で「峰小授業スタイル」の確認を行うなど、初任者を含む若年層教員の授業力向上とベテラン層教員の学び直しを同時に進めている。各種研修の成果が実際の授業場面で発揮できるよう、研修資料の共有化も進めている。	D
達成状況	○6年生の全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均を上回ることができた。また、質問紙の回答も良好であった。 ○初任者を含む若年層教員で学習グループを作り、学び合いや相談の場としている。不明なことや不安なことは互いに共有し、確認し合うことで、ICT活用や板書、ノート指導、話型活用などの共通実践事項が着実に実施できてきている。	
自己評価	(評価) A ○県学習状況調査の結果では、6年社会がごくわずか県平均を下回ったのみで4～6年生の学習の定着状況はとても良好であった。 ○峰小学習スタイルで各教師が「学び合い」を重視した授業を意欲的に展開していた。また、若年層の教員にベテランが率先して授業を開示し、コーディネート力向上などで互いの授業改善の成果が顕著に見られた。	C
↑ 評価基準 ↓ A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B 達成状況は概ね良好で、学習指導に対してよく取り組んでいる。更に、楽しい授業が、よく分かる授業、点数として結果に結びつく授業になるように期待している。新年度に職員構成が変わったとしても、峰小学習スタイルなどへの取組を継続するとともに、様々な変化にも柔軟に対応できるようにしてほしい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	峰小学習スタイルの継承・改善による授業力向上を実感することができたので、更に次年度の研修でも、組織的・計画的に取り組んでいきたい。また、増えてきている若年層教員の授業力向上も大きな課題である。学ぶ意欲に満ちた教員集団であるので、研究授業会、見合う授業など協働的な研修を通して、児童にとって「楽しくて、よく分かる」授業を全教員で目指していきたい。	A

令和5年度 学校評価シート②

八峰町立峰浜小学校

R6年2月15日(木) 報告

評価項目

生徒指導

重点目標	児童が主体的に活動できるよう、児童会や学級活動の活性化を図る。		P
現 状	・高学年を中心に全校の仲がよく、児童会等での活動意欲も高いが、自分の意見を言えず、課題に積極的に関われない児童も見られる。		
具体的な目標	○挨拶の活性化を図るとともに、児童会や学級会等では、児童が主体となっ多様な活動で自己決定できる場面を多く設定する。 ○児童アンケートで「学校が楽しい」と答える児童の割合が90%を超えるようにする。		
目標達成のための方策	○心を育てる道徳授業の充実と挨拶運動の推進。 ○多様な考えと自己決定の場を保障した児童会・学級会活動の充実。 ○縦割り班活動、異年齢集団活動の積極的活用。 ○各種調査（QU、児童アンケート）を活用した課題把握と早期対応。		
具体的な取組状況	○6年生が最上級生としての自覚のもと、リーダーシップを発揮し、児童会活動や縦割り班の活動を活発化させている。朝や帰りの挨拶活性化は、強調週間を設けたり、児童会総会で話合いの場を設けたりして意識化を図っている。 ○児童会活動や学級会などでは、児童に自己決定させる場を意図的に設定する取組を行ってきている。		D
達成状況	○授業や各種集会・行事、縦割り班清掃、学級会などで返事や挨拶、考えや感想の交流が活発になってきている。 ○児童の意思表示・感想発表・自己決定の場を意図的に設定する取組を進めているが、まだ自分の考えや感想を堂々と発表できない児童も見られる。更に多様な課題や場を設け、適切な目的と役割を与えることによって課題克服を図っていく。		
自己評価	(評価) B	○委員会や縦割り班活動などで高学年がリーダーシップを発揮し、児童自らが学校生活をよりよいものにしていく姿勢が見られた。 ○児童数減少により、登校班や児童会などでは、組織の見直しが必要である。学校が楽しいと答えている児童がとて多い一方、児童が相互に関わり、協力し合う活動を意図的・計画的に充実させていく必要がある。	C
↑ 評価基準 ↓ A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	A	児童数減少によって人数的なパワーダウンに目がいきがちであるが、一人一人が存分に活躍という側面もある。登校班や児童会など、組織的な見直しは必要になりそうだが、児童の得手不得手を正しく把握し、多様で有意義な体験を積ませてほしい。今後も児童が自ら考え、行動することにより「学校が楽しい」ことを実感する児童に育つよう期待している。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	新型コロナウイルスの行動制限も緩和され、6年生を中心に児童会や縦割り班の活動が活発になってきている。児童数減少による組織見直しでは、一人一人に十分な活躍と経験の場を用意していく方向で、より主体的で行動力に満ちた児童の育成を目指したい。また、近隣の学校・子ども園との交流を新たに計画し、児童のアイディアや思いを十分に反映させていきたい。		A

令和5年度 学校評価シート③

八峰町立峰浜小学校

R 6 年 2 月 1 5 日 (木) 報告

評価項目

ふるさとキャリア

重点目標	「まちに学び、まちを思う」ふるさとと教育・キャリア教育を充実させる。		
現 状	・新型コロナ感染対策で、地域人材・素材との積極的交流が閉ざされていた期間から脱却し、新たな計画による活動を模索している。 ・コミュニティ・スクールであることや充実したICT環境の強みを生かしたふるさとと教育・キャリア教育の工夫が求められている。		P
具体的な目標	○全学年で発達段階に応じたふるさとと学習・地域人材との交流を行う。 ○地域素材・人材を効果的に活用し、体験的で多様な学習を展開して、ふるさとのよさを感じ取り、地域の将来を考える意識を高める		
目標達成のための方策	○全学年で豊かな地域素材や人材と体験的に触れ合う機会を設定し、ふるさとのよさや可能性と向き合うことができるようにする。 ○「俳句の学校」の伝統を継続し、俳句づくりを通して地域のよさや児童の優れた感性を様々な学習活動と関連付けて情報発信する。 ○多様な活動の成果や課題を蓄積し、地域や保護者と共有していく。		
具体的な取組状況	○PTAとも連携した行事として今年度、「親子でジオ体験」を企画した。また、この後、「峰小ふるさと学習Day」を実施する予定である。 ○3年生は、峰浜梨について果樹農家から継続的に学び、峰浜梨の魅力を地域にアピールするのぼり旗を作成した。 ○4年生は、町観光協会の協力でラベンダーを観察・収穫した。これをサシェにし、「峰小ふるさと学習Day」で販売する予定である。 ○5年生は、JA青年部の協力で田植えから稲刈りまで体験的に学び、「峰小ふるさと学習Day」で「峰っ子米」として販売する予定である。 ○6年生は、JA青年部の協力で菌床椎茸の栽培に挑戦している。これを「峰小ふるさと学習Day」で販売する予定である。		D
達成状況	○「親子でジオ体験」では、八峰ジオサイトの魅力を親子で確認できた。また、「峰小ふるさと学習Day」では、低学年は、校内に保護者を招き、収穫したサツマイモや梨を味わう体験を行う。また、高学年は、八峰中で行われる「町民祭」にブースを設けることで、地域の方々に向けて学びの成果をアピールしながら販売を行う。 ○地域の素材を学びに結び付け、PTAや祖父母、JA青年部、地域の農家の方など、多様な人材を活用した特色ある学習を展開している。また、地域に誇りをもって仕事をしておられる方の考え方や生き方に直接、ふれることを通して、児童のキャリア教育充実が進んできている。		
自己評価	(評価) A	○今年度は「親子でジオ体験」や「ふるさと学習Day」等保護者や地域を巻き込む活動を新規に行った。体験的で多くの人々と関わる多様な学習が展開でき、児童はふるさとのよさや人々のがんばる姿を実感できていた。	C
↑ 評価基準 ↓			
A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	A	「親子でジオ体験」や「ふるさと学習Day」など、地域との多様な交流がとてもよく実施できていた。特に高学年では、ふるさと学習の成果を地域での物販と結びつけていて、児童の貴重な学びの場になった。最終的な成果は児童が大人になった姿に表れる。地域との関係が密接で良好だった。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	峰浜地区の恵まれた自然環境・産業・人材と密接に関わった多様なふるさと・キャリア学習が全学年で展開できた。今後も継承・改善に努めていきたい。八峰白神ジオパーク推進協議会と連携し、新規に企画した「親子でジオ体験」も、課題と成果を検証して引き続き実施したい。児童の考えや思い、工夫を積極的に反映させることで地域を題材に特色に満ち、充実した学習を展開していきたい。		A